

てしまっています。

この例からもわかりますように、平均値が代表値として意味を持つのは、データに、極端な差がない場合、ということになります。この例では、平均値を代表値とするのは、適当ではありません。

### (2) 中央値 (中位数, メジアンともいう)

中央値とは、データの各値を、大きさの順に並べたとき、中央の値をいいます。データの個数が偶数の場合は、中央の二つの値を平均したものをいいます。

中央値は、データの中の、極端な値に対しては、割合影響されないで、データに極端な値がいくつかある場合の代表値として、よく用いられます。

(1)で、例としてあげた6個の数値を大きさの順に並べますと、

45, 50, 55, 55, 60, 100

この場合の中央値は、3番目と4番目の2つの値 (どちらも55) の平均値ですから55です。この6個の数値の場合、代表値として、中央値が適当です。

### (3) 並み数 (最頻値, モードともいう)

並み数とは、データの中で、度数の最も多い変量の値をいいます。データが度数分布表に整理されているときは、最大度数を持つ階級値をいいます。

並み数も、極端な少数の値には、割合影響されることが少なく、最もしばしば起こるものにポイントをおいてデータの特徴をつかもうとする場合に用いられます。

## 4. 散布度

散布度とは、データのばらつきの度合いを示すデータの要約値をいいます。散布度には、範囲、平均偏差、分散、標準偏差などがあることはすでに述べました。次に、これらについて説明するわけですが、ちょっと趣を変えて、授業形式で話を進めることにします。以下、**T**は**教師**、**P**は**生徒**です。